

2021年10月度「はちおうじっ子のコロナに負けるな！応援プロジェクト」ご報告

緊急事態宣言が明け、感染者も急激に減少し、飲食店も再開しはじめ、まちに賑わいが戻ってきていますが、長期にわたるコロナ禍の影響はまだまだ続くことが予想されます。7月に続き、今年度2回目の食品配送を実施しました。

今回の応募数は259世帯、前回より約100世帯減少しました。これまで増える一方でしたので原因を考えてみますと、2年近いコロナ禍でいつまでも「仕事がない、困った」とばかり言っていられないとwithコロナの生き方、付き合い方を皆さんが模索し始めたのかと推察しています。前回配送した世帯、他からの支援がある世帯を基本除き、152世帯に送りました。

緊急事態宣言が明けたとはいえ、まだなかなかお出かけの機会が少ない状況のこどもたちに「食で楽しさを届ける」ことに心がけ、お子さんが喜んでくれるような食品やお菓子を封入しました。また、お家時間を楽しめるようにご寄付いただいた絵本を1冊ずつ入れました。

協力団体

こども食堂ふくろうはうす・もとはち東ふれあい食堂・
ほいっぴ食堂・多世代交流広場お茶の間「民」・
有限会社バーゼル洋菓子店

スケジュール

10月1日 「はち☆エール」への掲載
市内学童クラブへのチラシ配布
10月1日～10日 配送家庭の募集
10月17日 第1回配送作業
10月24日 第2回配送作業
11月5日 配送終了



応募状況

八王子市の一人親向けメールマガジン「はち☆エール」と学童クラブへのチラシ配布を中心に、SNSなどで広報を行いました。応募総数は259件、前回より92件減りました。前回の配送世帯、他団体から支援を受けている世帯を除いた後、コメントで生活困窮を書いている方を加え、結果152世帯の方に送付しました。

《コメントの紹介》

私は飲食店でパートで仕事していましたが、コロナの影響で、人件費カットで、急遽お休みになる事が多く、生活費の足しに全くなりず本当に大変な日々を送っています。

たくさんありすぎて何から伝えればいいのか分かりませんが、コロナ禍で離婚をしてから、コロナが理由で転職をして、コロナが原因で仕事が減り、たくさんの方が同じような状況に居ると思います。今までの生活と同じような生活は絶対にできない状態です。どうかご支援をよろしくお願いいたします。

収入がコロナの影響で下がり、支援を受けたくても片親ではないので支援がうけれない

8月末から9月末にかけてコロナに家庭内感染しました。妻である私はフリーランスのため、休業補償なし、主人は休業支援金を申請し審査中ですが、持病が悪化し、仕事に復帰したもののまた休んでいる状態です。こどもに少しでも喜んでほしくて今回申込みました。よろしくお願いします

仕事が減って収入も少なく、家族で乗る車を手放しました。毎日、節約を心がけ、栄養があるものをたべさせてあげたいです。こんな毎日だけど心だけは豊かな気持ちで前向きに頑張りたいです。

少しでも収入を増やす為、週6で働いていて、かなりしんどい。なかなか買い物にも行けず、時短出来る材料を選ぶと出費がかさみます。

食品調達

「むすびえ・休眠預金新型コロナウイルス対応緊急支援助成」を中心に企業、団体、市民の皆さまからたくさんの食品をご寄付いただきました。そのほとんどの皆さまが継続的に支援をしてくださっている方だということがとても嬉しく思っています。

配送作業

152箱を2回に分けて、協力団体と一緒に作業を行いました。パーゼル洋菓子店が配送に協力してくれたこと、こども食堂ふくろうはうす、フードバンク八王子へ、受取に来てくださった方が多かったことなどで、一番経費のかかる配送費を抑えることができました。



アンケートはがき



たくさんのアンケートはがきが戻ってきました！良かった食品の第1位はやはりお米です。こどもたちにはお菓子と絵本が好評でした。皆さんが書いてくださったコメントを一部ご紹介します。「お菓子とハロウィンのお手紙はこどもたちの心の栄養になりました」「箱の中いっぱいにごまごころの食品が詰まっていて、感動で泣きました」「嬉しく温かい気持ちになりました」「コロナの中、いつの間にか大きく成長し、洋服が小さくなっていた

のにも気付かず、おかげさまで新しい洋服を買ってあげられました」

今後の応援のあり方

「はちおうじっ子のコロナに負けるな！ 応援プロジェクト」も5回になりました。緊急事態宣言が明け、感染者が減ったこと、今回応募が大幅に減ったことなど、今後の活動を考える機会と捉えています。コロナ禍が始まって以来、フードバンクだけでなく市内のこども食堂のほとんどが食料配布を続け、毎月延べ1000世帯以上が利用されていると推測されます。フードバンクの目的は、ちょっと苦しい時に、食で自立のお手伝いをすることです。2年経ち、その力が皆さんについてきたと感じています。それでも必要な方もまだまだいます。「必要なものを必要な人に」をモットーに活動を継続したいと考えています。それと共に、こどもたちが地域の中で笑顔で育つことができるようこども食堂の応援、体験イベントなどを今後も実施してまいります。「皆が自分の力でできることで応援しあえるまち」を目指して。次回は来年3月を予定しています。